

「永遠への思い」

～ 罪により失った永遠を愛の死によって永遠のものへ～ 第 I ペテロ 1:23-25

死はバッドエンドではない

私達人間は、ハッピーエンドで終わるドラマや映画が好きで、物語の結末がハッピーエンドで終わることを望んでいます。「結末がバッドエンド終わる物語を連続して観続けると人はどうなるか」という実験をした人がいるそうですが、多くの方は最後まで観ることができず、観終えた人は心の病気になるってしまった。という結果になったそうです。このように私たちはハッピーエンドを望んでいます。そして「死」は、その中でも最大のバッドエンドではないでしょうか？多くの人が「死」を恐れています。もし「死」がバッドエンドならば、私達の人生は何をして意味がないこととなります。だから人々は死後の世界を少しでも良くする為に生前に徳を積もうとしたりするのです。それは世の中が「死の真理」を知らないからです。しかしクリスチャンはイエス様の十字架によって「死」によって支配されることから解放されていることを本来は知っているはずですが、しかし、もしあなたが「死」に対して不安や恐れがあるとしたらイエス様の外側しか理解できていないかもしれません。私達の罪の為に十字架に架かり死んで3日目に蘇られたイエス様の復活は「死」に勝利をもたらしたのです。イエス様の死からの復活を人がした作り話だとする人がいます。しかしそれを立証することは難しく、反って復活された証拠の方が多く存在します。しかし立証することが目的ではありません。十字架の死と復活を通して人々が変えられたことを見て欲しいのです。

なぜ神は「ことば」を重んじるのか？

私たちは「ことば」を誤りました。その一番初めがアダムとイヴです。人が誤るとどうなるかという、隠れます。そして見つかる間違った言葉話を話します。「神様にごめんさい。」と、言えばよかったのにアダムとイヴは隠れました。そして「裸だから隠れた。」と言いました。ここで神様が投げかけた質問のとは全般的を外した答えを返します。人は一つ嘘をつくともうひとつ嘘をつかなければいけなくなり、どんどん嘘が増えます。しかし私達は嘘を繰り返してしまいます。嘘をつかないように生きるのではなく、嘘をつき存在であることを認めることが大切です。生き方が変えられたペテロ達はそのことが分かったのです。どれだけ人間が朽ちる物で救おうとしても、頑張りでは無理なのです。神様は朽ちず、変わらないもので自らが朽ちる姿をもってすることで、人間が一番恐れている死を、自らが死の理不尽に味わうことで解決をしようとしたというのが十字架の恵みと永遠です。

罪により失った永遠を愛の死によって永遠のもの

私たちが選ばなければならない道は結果滅ぼすのではなく、どれだけ苦難があろうとも結果生かせる道を選ぶことです。聖書の原則です。神様を信じていると口では言いながらその道を選ばずに今までと同じ生き方をするなら、聖書で教えていることに反するという事です。何か行為をするから救われるのではなく、ただイエスキリストを信じれば救われます。しかし、救われた私達には責任があります。なぜなら、あなたの為に死なれたからです。あなたは全ての為に生きる、その責任があります。逃げる生き方から向き合う生き方を選ばなければいけません。そのためには心が守られていなければいけません。ですから、復活の朝イエスキリストは女たちに「シャローム（平安があるように）」と言われました。今、あなたは不安ですか？あなたを戻そうとしている神様の計画をあなたは、頑張って壊そうとしています。

理不尽を理不尽で解決する（ローマ 8:28）

神が造られた被造物は初めから全てが益となるように造られています。しかし壊そうとするものそれは「同情」、「間違った視線」です。艱難や問題で不安になった時には神様の計画を信じて下さい。神様は私達を裁くためにしているのではなく、愛に導こうとしておられるのです。あなたが回復するときには、一番の弱点を通らされて回復させられます。ハッピーエンドを壊した「死」という問題を、十字架の死によって解決しました。人間の全ての罪の総称である死を用いて愛を表しまし

た。なぜ死を用いたのかという人間の一番の不安が“死”だからです。人類の一番嫌な事を用いて、人類に救いをもたらしました。ですから、あなたの人生が改善される時には、一番嫌なところが改善されるためにあなたにとって一番嫌なところを通して働かれます。悪魔は逆です。そこを改善させたくないし向き合わせないようにさせたいのです。

愛の死によってなぜ神は永遠を与えられたのか (伝道の書 3: 1~11)

私たちは目の前の状況に目を向けてはいけません。I ペテロで繰り返し言われています。なぜそうになっているのかに目を向けなければいけません。聖書は、あなたの“時”いつか終わっても良いように、生きなければいけないと伝えています。任された“時”は増やすことも、減らすこともできません。あなたに与えられた神の計画に生きるしかありません。だから私達には永遠の思いが与えられています。これがなければ間違った道を歩んでしまうからです。

①「永遠への思い⇒永遠」

永遠は十字架の恵みによって、ペテロが残された永遠の思いではなく、「永遠」であるという事です。あなたがたとえ今終わっても終わらない、これがイースターの恵みです。今、あなたの“時”が終わってもあなたの家族は大丈夫ですか？備えていますか？私たちが残すべきものは、財産などではありません、“ことば”だと聖書は伝えています。その日のやるべきことをしてください。【マタイ 6: 3 4】心配を置いて、任されたものをきちんと蒔くということです。そして生き様を残すことです。聖書は生き様が書かれている書物だからです。【ヨハネ 11: 2 5】そうすれば死んでも生きるのです。

②「死で死を打ち破る渴きを乾き」

③ 死と不安（心配）から自由に

いた人が、勝ち取るのです。喜べないときに喜んだ人が喜びを得るのです。逃げるときに逃げなかった人が祝福されます。ですから、どんなことが起ころうと私たちは逃げずに向かっていくのです。【ヨハネ 16: 3 3】私達は生き方を変えなければいけません。不安や心配を自由にする為には死に打ち勝たなければなりません。恐れるのを止め、避難されたのなら甘んじて立つことです。【ヨハネ 3: 1 3-1 7】神は実にそのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

さいごに～復活と再会～

イエス様に出会うとき、また失った人に出会うときに受ける恵みです。イエス様はあなたの人生で必ずこの時間を用意しています。どんなことがあろうとも復活の恵みによる再会を与えられます。復活の日弟子たちがどうして変わったのか、それは再会が嬉しかったからです。神は弱点を通して解決を用意されています。だから私達は向き合います。

『草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことばは永遠に立つ。』（イザ 40:8)

朽ちるものに目を向けるのを止めましょう。人の浅はかさで神の計画を壊してはいけません。神は私達に必ず喜び・再会・良いものを用意しておられます。解決されるまで戦いましょう。しかし神に委ねましょう。

『それから、イエスは少し進んで行って、ひれ伏して祈って言われた。「わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うようにではなく、あなたのみこころのように、なさってください。』（マタ 26:39)